袋井市教育委員会 会議録（要旨）

会議名	令和7年2月 袋井市教育委員会 定例会
招集日時	令和7年2月13日(木)午後1時25分
会議時間	午後1時25分から午後3時25分まで（2時間）
場所	教育会館 3階ICT研修室
出席者	鈴木一吉 教育長 鈴木万里子 委員 大谷純應 委員 溝口知秀 委員 (計：4人)
欠席者	吉田陽子 委員
傍聴者	無し
当局出席者	石黒克明 教育部長 小澤一則 教育監 山本 浩 教育企画課長 平野邦孝 未来の教育推進室長 戸塚建司 おいしい給食課課長 荒浪 健 子ども未来課長 戸塚隆雄 育ちの森所長 神田明治 学校教育課長 中村悟史 魅力ある部活動推進室長 大庭尚文 生涯学習課長 小久江暁子 袋井図書館長 白澤 崇 歴史文化館長 長谷川美德 教育企画課参事兼教育総務係長 (計：13人) (合計：17人)
会議に付した 事 件	別紙「令和7年2月 袋井市教育委員会定例会 会議日程」の とおり

令和7年2月 袋井市教育委員会定例会 日程
会 議 日 程

- 日程第1 開 会
日程第2 会議録署名委員の指名
日程第3 会議録の承認
日程第4 教育長報告
日程第5 教育部月例事業報告
日程第6 議 事（会議に付すべき事件）
（1）協議事項
協第2号令和6年度2月一般会計補正予算について
協第3号令和7年度一般会計当初予算について
協第4号袋井市立幼稚園の教育・保育環境のあり方検討（中間報告）について
（2）報告事項
報第6号寄附品の受納について
報第7号袋井市こどもしあわせプラン（袋井市こども計画）（最終案）について
報第8号令和6年度卒業（園）式 令和7年度入学（園）式 日時等
報第9号令和7年度学校閉庁日の設定について
報第10号月見の里学遊館の指定管理者交替に伴う臨時休館について
報第11号袋井市立学校給食センター運営協議会資料について
- 日程第7 意見交換
若手教員育成事業「ふくろうはばたきプラン」について
- 日程第8 その他
（1）連絡事項
ア「令和7年袋井市はたちの集いの開催結果について
イ袋井市学校給食展開催結果について
- （2）次回定例会等の予定について
2月教育委員会臨時会
令和7年2月25日（火） 午後4時 教育会館3階 ICT研修室
- 3月教育委員会定例会
令和7年3月26日（水） 午後1時30分 教育会館3階 ICT研修室
- （3）その他
- 日程第9 閉 会

1 開会

●教育長

2 会議録署名委員の指名

●教育長

鈴木委員 と 溝口委員 を指名

3 会議録の承認

●教育長

1月の定例会の会議録については、承認

4 教育長報告

●教育長

資料に基づき、主な内容を報告

5 教育部月例事業報告

●各課長

資料に基づき、各課長から主な事業を報告

6 議事

【議決事項】

●教育長

今回は、議決事項はございません。

【協議事項】

●教育長

協議事項について、事務局から説明をお願いします。

協第2号令和6年度2月一般会計補正予算について

●教育企画課長

資料に基づき説明

[質疑・意見]

なし

●教育長

本件は協議事項となります。原案どおりとしてよろしいでしょうか。

(異議なし。)

●教育長

それでは、承認します。

協第3号令和7年度一般会計当初予算について

●教育企画課長

資料に基づき説明

[質疑・意見]

●鈴木委員

学校教育課の事業について、全校に通級指導教室ということで全校にあることは望ましいことと思いますが、今通級指導教室を利用する子どものニーズがどのくらいあるか、待機者がいるのかということと、それに教員を十分に付けるだけの教員の余裕があるかどうかその点についてどうか。

●学校教育課長

待機者は今はいません。違う学校の方へ連れていくような親御さんの負担も軽減されますし、子ども達も自校であることで行ける時間帯がすごく広がるので通いやすくなると思います。子どもの実態からしても、通級指導教室で指導を受ける必要になっているという子どもが増えているということがありますので、子ども達の実態からのニーズもありますし、それに叶えられている状態ではないかなあと捉えています。

●鈴木委員

逆にそのインクルーシブ的な視点から言って、通常級の中で支援級ではなく通級を利用しながら通常級の中でという考えが進んでいっていただけなのであれば良いのかなあと思うのですが。先日も静岡新聞で、区別にならないかというそこを私は危惧しているので、そこのところを十分配慮してほしいなあとと思います。あと、教員が足りているのかはどうか。

●学校教育課長

教員の支援は大事かなあと思っています。在籍学級の中で子ども達が、困り感なく友達と関わって学んでいけるということは目指していきたいなあと思っているので、そのためにその子にとって必要な支援ニーズというのがあるので、それを通級で賄っていく。分けるのではなくて、インクルーシブで子どもが楽しく学んでいけるようにするために、通級指導をするんだよということを意識しながらやっていくということです。教員の方ですが、これを進めて行くにあたっては、指導できる教員を育成するということが必須であって、3年前から計画しながら取り組んできました。研修会も市の方で年3回に回数を増やしてやっているところです。通級指導教室の担当だけの研修会ではなくて、関心を持っている先生方を含めて、大勢の教員が研修に参加してくれているような状態があります。少しずつこの3年で通級の学級が増えてきたことによって、自校に通級があるということは

すごく大きなメリットになっているので、そこでまた関心を持ってくれる教員が今増えてきているなあとと思っています。人事異動をやるにあたって、通級の増設と人事というのは、もうタイアップしてやっていかないといけないと思っていまして、今度増設するには今経験を持っている人達が異動してそこでやっていくという形を今取っていますので、全く知らない人がいきなり通級の担当者になるということは考えていません。

●鈴木委員

それは当然できないと思うのです。学校を回っていく中でどこの学校からも出てくるのは、人がいないということをしごく言われるんですよね。そういう面でちょっと心配をしています。

●学校教育課長

そう言った声もあります。教員の欠員は慢性化しています。慢性的な欠員です。本年度もそうです。私が課長になってからずっと欠員になっています。これは袋井市に限らず、静岡県全体でそのような状態になっています。その中で、人がいないから通級指導教室をやらないという考え方ももちろんあるのですけれども、でそれによって子ども達が本当にニーズがある支援を受けられないということになるということは、そこは考えなければいけないかなあと自分は考えています。どのくらい増やしていくのかというところが教員の欠員状況を見ながらやっていく必要があって、例年そんな形でやっているのですが。いきに例えば、5学級とか6学級とか増えるのであればなかなか厳しいのではないかという感もあります。教員も一気には育成できないので、少しずつ進めているというそんな形になっています。欠員状況は確かに厳しいんですけれども、これによって現場から同時に聞こえてくるのは、通級指導教室が充実したことで、子ども達が安心して日々学べるようになっていくと。これは、教員が足りないというところにも勝るような効果があるのではないかという声もいただいていますし、そういった子どもを私達も見ているので、単純に人がいないから困ったということももちろんあるんですけれども、子ども達にどんな良いことが起きているかということ考えた時にはこうやって通級が少しずつ増えてきて、安心して子ども達がそういった支援を受けられるような環境に今なっているということは大きなメリットになっているのかなあとと思っています。とはいっても欠員は厳しいです。そこは事実です。

●鈴木委員

いろんな面で取り組んでいただいているのはありがたいことです。子ども達の不登校とか、いじめとか問題行動とかが減っていかないというのは、やっぱり何か手を打たないといけないなあと。不登校も自分の身近でもいっぱい聞くんですよね。そういう話を聴くと何とかしてあげたいなあとという思いがすごくあって、そのために今までの取組で良かったのかどうかと振り返ることも必要かなあと思っていたので、予算ということではないですが、そんなことを最近考えています。

●学校教育課長

本当そうだなって思います。不登校やいじめは大きな問題で、どうなると子ども達の不登校が減る、安心して学べるようになるのかなあと今考えております。それは不登校への教育支援センターも居場所として作っていかうかなあと考えていまして、1つの案で去年から進めてはいるのですが。子ども達はいろんな背景を持っていて、特性が起因している子どももちろんいますし、友達関係の子もいますし、家庭環境ということもありますので、なかなかこれをやったら不登校が減るだとか、なかなか難しいのですが、でも、考えられるところは教育委員会としてもどんな施策でいけるかという、いろいろと手は打っているところでして、その効果をきちんと評価しながら、もっと充実させるところへはどんどん力を入れていく。そんな形で進めていきたいなあと考えていますので、いろいろと御意見の方をいただくと非常にありがたいなあと。

●鈴木委員

一律なカリキュラムじゃなくて、多様な。それぞれ一人ずつ違うと思うんですよ、背景が。そこにまだ十分学校に行くだけの力がない子達は、その居場所だけというの必要なんじゃないかなあと思います。是非柔軟にお願いをしたいと思います。

●溝口委員

小学校、中学校の予算が今期と比べて減ったとかどうかとか中身を細かくは見えていないですが、少なくともだいぶ抑えられているなど。設備の補修とかを遅らせようかなあとというようなことの話もありました。それもわからないわけではない気もしますが、直接授業に関わるような、子どもや先生に関わるようなことでどうしてもやりたかったけど、まあ一年延ばすかというそんなのってないでしょうねと。そこだけなんですよ、どうですか、大丈夫ですか。

●教育企画課長

それはありません。

●溝口委員

建物なんかも、特にトイレとかもやりたいし。浅羽中学校へ行った時に、校長へは言ったのですが、体育館が錆びているわけですよ。入口でみんなが学校きれいだなあと見て、横を見ると体育館が錆び錆びになっている。何とかならないかと言っちゃったんですよ。もちろん他にももっとやらなければいけないことがいっぱいあるんですけど。気づいてきれいにしていってあげたい。厳しいですけど、特に授業に直結することだけは、是非気を付けてそこだけは頑張ってやっていただきたいなあとそれだけです。

●教育長

ありがとうございます。予算については、400億を初めて一般会計が超えたと。財政が厳しい割には毎年予算が上がってくるのはどういうことかなあと私個人的には疑問に思っているところです。しょうがないのですが。おそらく義務的経費がかなり増えてしまっているというのが一番の要因だと思います。教育委員会としても適切な執行、それから計画

的に、単年度ではなくて複数年で計画的にやっていくことが必要かと思います。

これも協議事項ですので、原案どおりということによろしいでしょうか。

(異議なし。)

●教育長

それでは、承認します。

協第4号袋井市立幼稚園の教育・保育環境のあり方検討（中間報告）について

●子ども未来課長

資料に基づき説明

[質疑・意見]

●溝口委員

保護者や地域から意見が出てますけれども、ちょっと偏っているなあと少し心配しています。幼稚園に通っている保護者ですから、全体の意見かというところちょっと心配なところは1個あります。もう1個、基本的なところを教えてくださいなのですが、3番の教育保育のあり方についての(1)イです。適正配置のこと、方針を決めていますね。このアからエを読むと、私の判断だと、純粹に考えると、1学年20人以上いないとダメ。20人以上いるのが望ましいというふうに読めるんです。1学級の最適人数は10人を下回らない方が良いでしょう。それが複数学級あった方が良いでしょう。ということは、最低20人からなのかなあと個人的には読めたんです。今回統合の案Aを見ると、十何人とか二十何人とかぎりぎり。十何人はぎりぎりではないでしょうけど。その判断が正しいのかなあと。それから、これからこの先どうなるかと言ったら、統合したら親の立場からしたら減っていく。減らす方向かなあとと思うと、もっと減っていく可能性がある。最近流行りの言葉で言うと、サステイナブルとかね、継続的にこの考え方でここ数年運用できるのかどうかすごく心配です。3歳児の人数を見ると、そこについては皆さんどんなふう考えていらっしゃるのか、もし意見等出ているようでしたら教えてください。

●子ども未来課長

2ページのところで、左下にグラフがございますけれども、これ以前も御説明したかもしれませんが、3歳から5歳の出生数でありますとか、保育・幼稚園ニーズのところの分析をしております。今子ども計画の中で、第3次の推計をしておりますけれども、まずは赤いラインが幼稚園であります。昨年度ニーズ調査をした中では、行くか行かないかは別にして、幼稚園のニーズは3割程度あります。分析をしていくと、赤いラインで6年後の令和11年には555人と書いてありますが、大体ここら辺が保育園と幼稚園が7対3の割合にあるということで、今の推計の中ではここ5、6年の中ではこの555人辺りで横ばい、又は若干下降気味になってくるだろうと推計しております。この時の公立幼稚園の人数は、555人は愛野こども園とかこども園と私立の山名幼稚園を足した数字になってお

りますので、公立だけを見込むと約 170 人ということで、その辺の推計をしております。今我々ができる予測の中では、ここら辺でいったん落ち着いて、何とか公立幼稚園を維持というか、役割を果たすために残していきたいということで考えております。

●溝口委員

まあそういうことかと思えます。で、一番少ないところが、浅羽西、浅羽南、浅羽北の 11 人。これがさっきの基本的な考えからすると、十人前後ということが妥当かと皆さん判断しているのか。

●子ども未来課長

担当課として、いろいろな幼稚園や保育園、放課後児童クラブなど現場を見ていますけれども、やはり理想としては、少人数で固定化すると、例えば序列ができてしまって、いじめの問題などが起こった時に組み替えができないとか、いろんなことが起こっております。なので理想としては、やはり複数クラスあった方が、人の入れ替えができるものですから、いじめられている子が他のクラスに行って人間関係を一から作るというようなことも考えられるので、幼稚園の良さを知っていただいでですね、なるべく理想に近づけていけるようにということやってまいりたいなあと思っています。

●教育長

実は会の中で、浅羽 3 園を足してもいずれまた人が減ってしまって、適正規模が確保できなくなるのではないかという議論は当然ありました。が、公立幼稚園の果たす役割をみんな大切にしないといけないという意見も相当ありました。民間の保育園になるとどうしてもビジネスベースが当然あります。そうでないと経営が成り立ちませんから。その点公立幼稚園は、ビジネスベースを考えないで、教育保育の質をとにかく大切にしましょうということで、公立幼稚園の拠点園としての役割がちゃんとあるのではないかという議論も一方であって、そうやってみると、実は浅羽 3 園とルンビニひかりがあるので、ルンビニひかりとの統合という案も出しました。が、内々にルンビニさんに聞いたら、とてもうちで幼稚園は受けられない。今のところ考えていませんという、ある意味ノーサンキューというお返事をいただきました。となると、浅羽地区をどうするかというと、浅羽地区で固まるか、浅羽から全部幼稚園を無くすかという話になってしまう時に、いやそれはどうなのと。公立幼稚園の果たす役割がある程度、地域的に地域との繋がりをやりながら大切にしていくということが一つの考え方ではないのかというお話しもあって、では A 案で行きましょうかという意見に集約がされました。確かに、60 人がもっと増えればよいですが、減っていった時に適正規模が減るということもあるでしょうが、その時もう一回再度考えないといけない場面も出てくるかなあと、そういう風には思っていますけれども。何よりも、公立幼稚園のその素晴らしさを僕らは大切にするという事を、委員の方からもそういう御意見をいただいたので、今はそんな風集約されているということです。

●溝口委員

僕もそれで良いとは思うのですよ。そうすると基本の考え方を変えてあげないと、今の

基本の考え方がある以上は、入ってくれる保護者に、袋井市としては、このくらいの幼稚園のこのくらい的人数が適当だと思っていますと。逆に言えば、それより少ないと思ったような教育ができない可能性があります、そこはちゃんと認識してくださいねと。要は、大人の都合で子どもにちょっと迷惑をかけるかもしれないけれど、そこはちょっと理解してくださいね、という説明をするのか、或いは、いやそうではない。少ないからもう少しここに人を費やして、少なくともやれる方向を作りますから入ってくださいと言うか。何かそれを説明しない限り、あの人数20人とか30人とか欲しいよと言っているところで、10人でさあ頑張りましょうというのは、親としても不安だと思うんですよ。そこはちゃんと説明して欲しいのと、説明だけじゃなくて何か施策をしないと。今小規模の幼稚園に行くと、年中さんと年少さん、年中と年長を一緒にやるとかね。実際好ましくない袋井市は思っているけれど、やっているわけじゃないですか。なおかつ先生に関しては、児童も生徒も減るのに比例して、何人減りますよと実際減らしているわけですよ。で、ものすごく苦労している。それを何か修正してですね、もっと少人数でもちゃんとみれますよという施策をしてあげて、このやり方だったらまだ親の納得が得られて、子ども達も袋井の理想に近づけていけるのかなあとと思っています。その辺のちぐはぐがあるなというところを感じているので、何かうまい説明とうまい施策を考えて欲しいと思っています。

●教育長

適正規模については、本来守れば一番良いと思っております。基本方針の一番下の方に、再編については、保護者のニーズを踏まえて工夫や努力をするとあります。運用とか施策で、できることをやる必要があると思っています。私共としても、10人を下回ったところは、集団としての経験とか、交流が少なくなってしまうので、できるだけ20人クラスを作れることが望ましいかと思っています。

●溝口委員

人数はこっちではコントロールできないですからね。

●教育長

しかも単年度だけで物を言うのは危険なので。ある程度傾向を見ないといけないかと。

●溝口委員

児童の人数に従って、職員の数を一律で減らしますというのは、小規模のところは考えないといけないかなあと回っていて思うところではあります。是非その辺お考えいただいて。

●教育長

まだ最終案ではないので中間報告ということで、今度の議会に出します。それから新年度だと思いますが、地域や保護者へ一回説明をして、そのリアクションで最終案を固めていくような形です。また報告をさせていただきます。

【報告事項】

報第6号寄附品の受納について

- 教育企画課長
資料に基づき説明

[質疑・意見]
なし

報第7号袋井市こどもしあわせプラン（袋井市こども計画）（最終案）について

- 子ども未来課長
資料に基づき説明

[質疑・意見]
なし

報第8号令和6年度卒業(園)式 令和7年度入学(園)式 日時等

- 学校教育課長
資料に基づき説明

[質疑・意見]

- 溝口委員
幼稚園卒園式ですが、3月14日はどうしても抜けられない用事がありまして、どなたかに代わって欲しいのですが。

- 教育長
田原幼稚園ですよ。

- 溝口委員
そうです。

- 教育長
また改めて通知は送らせていただきますので。溝口さんの田原幼を抜いて通知をお願いします。

報第9号令和7年度学校閉庁日の設定について

- 学校教育課長
資料に基づき説明

[質疑・意見]

なし

報第10号月見の里学遊館の指定管理者交替に伴う臨時休館について

●生涯学習課長

資料に基づき説明

[質疑・意見]

なし

報第11号袋井市立学校給食センター運営協議会資料について

●おいしい給食課長

資料に基づき説明

[質疑・意見]

なし

7 意見交換

若手教員育成事業「ふくろうはばたきプラン」について

発表者：学校教育課 鈴木秀和氏、萩原早苗氏、飯田智子氏

8 その他

(1) 連絡事項

ア「令和7年袋井市はたちの集いの開催結果について

イ袋井市学校給食展開催結果について

(2) 次回定例会等の予定について

2月教育委員会臨時会

令和7年2月25日（火） 午後4時00分 教育会館 3階 ICT研修室

3月教育委員会定例会

令和7年3月26日（木） 午後1時30分 教育会館 3階 ICT研修室

(3) その他

9 閉会

(午後3時25分閉会)